

哲学者・故市倉宏祐名誉教授著 『特攻の記録 縁路面に座って』

構想から20年超の労作



2012年に90歳で亡くなれた哲学者の市倉宏祐名誉教授の『特攻の記録 縁路面に座って』が出版された。市倉ゼミ卒業生らによる委員会(伊吹克己文学部教授代表)によって編まれた。

構想から出版まで20年以上かかった労作。今年8月の七回忌法要で、遺

伊吹教授らゼミ卒業生が出版

族に披露された。

市倉元教授は1921年横浜生まれ。東京帝国大学(東京大学)在学中の43年、学徒出陣で海軍に入り、茨城県の土浦海軍航空隊で特別攻撃(特攻)の出撃を待つ間に終戦を迎えた。戦後復学。49年から定年の92年まで専修大学文学部の教壇に立った。専門はサルトルなど現代フランス哲学。

『特攻の記録』は、市倉元教授が執筆した原稿を中心に構成され、入隊した海軍14期会の会報からの引用もある。厳しい



『特攻の記録 縁路面に座って』をめぐり市倉元教授の思い出を語る伊吹教授

昭和二十年の早春、宿題」と話していたといふ市倉元教授。専大定年後、伊吹教授ら市倉ゼミ卒業生に協力を求めた。定年5年後の97年に市倉元教授から分厚い原稿を手渡されたという伊吹教授は、「授業中、特攻時代のことを学生によく話していたと振り返る。

同じく市倉ゼミ卒業生の山野井克巳さん(平元文)は「学問の解釈は徹底した議論からと、研究も教育も全力で取り組む方だった。そんなひたむきな人柄を『特攻の記録』から感じ取ってほしい」と語る。

『特攻の記録 縁路面に座って』は全233頁。希望者には1000円で頒布する。問い合わせは03・3641・3344、Eメールはink@ilas.net。

学徒出陣＝戦況の悪化に伴い、1943年、政府は主に文科系大学や専門学校に通う学生の徴兵猶予の停止を公布。陸海軍に入隊した学生たち

障がいのある人の立場を体験することで支援の仕方や心構えを学んでもらおうと、車椅子とアイマスクの体験講座が12月1日、神田キャンパスで

車椅子とアイマスクの体験講座

支援や心構え学ぶ



学食の食券販売機では「1人だと難しいかも」との感想も

午前中に行われた車椅子体験講座では、2人1組になって車椅子でキャンパスを一周した。車椅子ユーザーの牧原伸之さん(文4)は、「体験したこと、車椅子ユーザーや目の見えない方の感覚が分かった。積極的に話しかけ、今が必要か、その人に寄り添ったサポートをしていきたい」と話した。

午後からのアイマスク体験では、体験者は目隠しをして白杖を持ち、介助者のサポートを受けながら階段を上ったり、路上を歩いたりした。都内のホテルに内定している長竹益寿江さん(文4)は、「体験したこと、車椅子ユーザーや目の見えない方の感覚が分かった。積極的に話しかけ、今が必要か、その人に寄り添ったサポートをしていきたい」と話した。

10月に亡くなられた大庭健名誉教授を悼み、親交の深かった金子洋之文学部教授に追悼文を寄せていただいた。



大庭健さんを追悼する

金子洋之文学部教授

断り説明してみせること。ここで氏を追悼したい。では群を抜いていた。大庭さんは、倫理学の中でも、ときどき熱情や思いが噴出してひどく単純明快な人柄を見せることもあったし、それがいらぬ摩擦を引き起こしたこともないわけではな

理論的な成果を実践につなげた

り熱いものがある。その熱いものがクールな行間からにじみ出てくるというの、かっこいいよね。この発言は大庭さんの人柄を示唆しているように私には思われる。大庭さんは、学者として教師として、とてもクールで、物事を順序立てて明らかにしたかについて書き記す

呼ばれる比較的地味で理論的な分野にも身を置くべき、その論理的な分析手法を熟知しながら、そのなものが理論的な考察に基盤を与えようことを明確に示してみせることでもあった。

この研究スタイルは、実際の講義や卒論の指導にも反映されており、彼は、個人研究室より学生

感という実践的な側面にどうつなげるかを課題としていたのである。物理に例えて言えば、理論学に例えて言えば、物理と実験物理を一人の手に両方やってみようという途方もないことである。しかし大庭さんはそれを通して受け継がれていくはずである。

大庭さんは、専修大学の図書館長を務められた。大庭さんの図書館長としての仕事は実に立派なものであった。それは、哲学における理論的考察が実践的な意

ココロとカラダをストレッチ



第4回「ココロとカラダの健康講座」が11月20日、神田キャンパス5号館アクティブラウンジで開催され、学生、教職員ら10人が手軽にできるストレッチを体験した。

講師は富川理充商学部教授(スポーツ研究所員)。リオデジャネイロ・パラリンピックでパラトライアスロン日本代表チームのヘッドコーチを務めた。「体がつらい」と思ったり、ストレスを感じたりする時に、タオルを使ったストレッチを体験する学生

富川教授は「体を動かすことはストレスケアにもなる。ストレッチに限らず10分程度のウォーキングをするだけでも効果がある」と話す。

今回は神田キャンパスで初めての開催で、学生相談室と図書課の共同企画。会場にストレッチ関連書も置かれた。

参加者はタオルの一端を「ほぐす」タオルストレッチのやり方を紹介した。